

4 成果と課題

今年度の課題研究は、昨年度と同様に授業を担当する指導者チームを中心として、キャリア教育の観点から授業づくりを行っていくことに焦点を当てた。生活単元学習と作業学習において、これまでの授業・指導をマトリックスに照らし合わせ、また昨年度までの研究の成果と課題を踏まえ、学校教育目標を達成するための具体的な授業実践が成されることを目指した。

生活単元学習部会の研究では、マトリックスの各学年段階・各指導観点における教育方針も踏まえた上で、「心とからだの学習」単元において生徒に身につけさせたい力を各学年段階にまとめた「指導段階表」を昨年度完成させた。今年度はこの指導段階表を用いた研究授業を行い、指導段階表の中身が適切であるかどうかを検証した。おおむね適正であり、授業の計画がしやすくなったという成果もあった。こうしてマトリックスを活用できている側面がある一方で、使いにくいという声もあった。昨年度からマトリックスの生かし方がよくわからないという意見が出されていたが、具体的には次のとおりであった。

- ・マトリックスは指導者の目標であるため、生徒視点で目標が記載される単元計画や指導案にマトリックスの文言を入れることは困難である。
- ・指導者の目標であるマトリックスを用いて年間指導計画を立て、前期・年度末評価を行うことで授業改善へとつなげることはできる。
- ・しかし、観点と指導内容が結びつかないものがある。また、学年が上がるにつれて観点的文言が具体的になるため、評価が難しくなる。

一方、作業学習部会の研究では、こうした声は一切聞かれない。昨年度から続く各学科における評価様式の見直し、これに付随して学習指導略案の様式の見直しも一層進め、より生徒の実態に即したキャリア発達を促す効果的な指導を実践することを目指した。学科経営案の「指導の重点」がマトリックスの観点で立てられていることから、この指導者側の目標をもとに単元や作業内容、題材を工夫することができている。さらに生徒の変化にきめ細かく気づくことができるような日々の記録と合わせることで、PDCA サイクルによるよりよい授業づくりが機能してきた。これは、この2年間の大きな成果と言える。

このように、両部会とも「これまでの授業・指導をマトリックスに照らし合わせ、よりよい授業づくりをする」ことを目指していたにもかかわらず、マトリックスの使いやすさの認識は両部会で異なるものとなった。このことについて、マトリックス作成当時の研究推進委員会メンバーと生活単元学習部会で12月に話し合いを設けた結果、主に出された見解は次のとおりであった。

- ① マトリックスの位置づけの共通理解が成されていない
- ② マトリックスの使い方が明確に打ち出されればよい
- ③ 生活単元学習や作業学習以外の授業も、マトリックスの観点を踏まえて作りたいが、それを検証していない状況で、マトリックスの位置づけを固めてしまってもよいのか

①については、第6次研究を開始する時点で位置づけを打ち出している（第1章2の（5）図3「目標への道」のイメージや、資料2のマトリックスそのものを参照）。しかし、これが不十分であったほか、研究を進めるうちに③のような疑問も生じてきた。マトリックスを作成した当時の研

究推進委員会では、あらゆる学校教育場面において指導の指針とすべきものとして作成を進め、そうした理解のもと各学年・学科でも検証を重ね、完成に至ったものである。しかし、本当に全ての授業場面において適正な指針として機能するものかどうかを検証することは、完成から2年が経過した現在も十分とは言えない。今後見直す可能性が十分あることから「試案」としているが、こうした状況ではいつまでも「試案」のままであり、「〇〇年度版」という格好にできないだろう。これを打開すべきと言わなければならない、②のような要望が昨年度から続いている。マトリックスと普段の教育活動やそのねらいがどのように結びついているのか明確に示されたものがなく、マトリックスのどの部分を意識してどの授業で何を指導するかという基準は個人あるいは一部指導者間のイメージに頼るところなのが現状である。よって、マトリックスの使い方そのものに混乱が生じているのである。

さらに、今年度から「指導内容表」についての意見も目立つようになった。平成21～22年度のプロジェクト研究で整理されたものだが、生徒の実態の変化により内容に不足が生じている、またマトリックスとの関連が一切議論されていないなどの指摘があった。このことについても、①～③とともに、同時並行的に議論を進める必要があるだろう。

このように、第6次研究終盤という時期に遅ればせながらも、様々な問題点に気づくことができたのは成果とも言える。しかし、具体的な解決策や対案を出すことはできなかった。このことも踏まえ、今後の本校の在り方に関わる次のような大きな課題が浮き彫りになったとも言えるだろう。

- ・学校教育目標、マトリックス、指導内容表をはじめ、様々な目標や計画を「教育課程」という大きな視点からも見つめ直し、関係性を明らかにし、日々の実践の改善につなげること
- ・そのために必要な研究と修養を職員一人一人が積み重ね、論理的・建設的な議論を進められるようになること
- ・物事（研究や各授業など）を行う理由やその計画などを確実に共通理解し、組織的にそれを進めること

ちなみに、今年度の1学年の総合的な学習の時間では、①～③についての議論を自然と行っていた。研究として取り組んだものではないが、年間指導計画（単元構成）や単元・授業の計画、指導の在り方など様々な見直しを行ったことで、実質的に検証・検討を行うことにもなったのである。単元計画作成時にマトリックスの観点の中から重点的に指導したい要素を抜き出し、それをもとに単元目標を立て、授業づくりを行った（詳しくは別冊『キャリア教育のすすめ』p32～33を参照）。1つの単元を考えるにあたって、マトリックスの観点の中から重点的に抜き出すところはどこが適切なのか、生徒の実態は踏まえているか、題材や指導内容はこれらに合ったものかなど、様々な要素を並べて複合的に考え、単元計画を立てることは大変な作業だった。しかし、指導担当者全員で協議・共通理解しながら計画を完成させ、指導し、どの単元でもこれらが不十分だったという反省は残らなかった。しかし、学校全体としてこの結果を検証・議論するには至っていない。

こうした動きが国語や数学など他の教科、あるいは領域・教科を合わせた指導においても行われ、学校全体としてこれを検証・議論することが理想ではないだろうか。その過程において、マトリックスを見直す必要性についての具体的な理由と改訂案が出され、マトリックスの使い方や位置づけについても次第に明確となり、結果として「〇〇年度版マトリックス」に基づいた今養版キャリア教育が本格的に機能し始めることになるだろう。